



昭和32年(1957年)頃、東京・信濃町の筆者宅2階にあったシャック。送信機の終段管が4E27(AM,出力50W)となつてからの設備。テープ・レコーダ(当時オープン・リールといった)は海外QSO録音用。午前2時,3時頃よりはじまる日米間の大激戦(QSO)のようすを録音した。今となつてはサイクル19のたいへん貴重な資料である(30巻ほどある)。カップは、50/144MHzのコンテストで入賞し受賞したもの。この当時はVHFを盛んにしようと、優勝者には国際電気株式会社より(貴重な)メカニカル・フィルタが贈られた